

4月12日 (日) 申命記 11章	「主のなさった大いなる御業をすべて、あなたたちは自分の目で見えてきた」(7節)。イスラエルの民は出エジプトや荒野を旅する行程で、主の御業をつぶさに見てきた。だから当然主の言葉に民は従うだろうと思い、「あなたたちは、わたしが今日命じるすべての戒めを守りなさい」(8節)と語られた。しかし民は主に従いきれず、呪いを受けることになる。
13日 (月) 申命記 12章	「こうして主が正しいと見なされることを行うなら、あなたも子孫も幸いを得るであろう」(25節)。焼き尽くす献げ物等を携えて主が選ばれる場所へ行き、主のみ前で家族と共に食べ、あなたたちの働きを喜び祝いなさい。主が祝福される。ただし、血は命であるから食べてはならない、地面に注ぎ出せと言われる。献げ物の命は主のものであることを学ぶためだろうか。
14日 (火) 申命記 13章	「あなたの神、主の御声に聞き従い、わたしが今日命じるすべての戒めを守り、あなたの神、主が正しいと見なされることを行いなさい」(19節)。わたしたちを神の愛から引き裂く預言者や夢占いをする者の言葉に従わないようにと神は警告する。奴隷の家から導き出された神を忘れることなど起こらないはずだが、イスラエルの民の不信仰に、人の罪深さを思う。
15日 (水) 申命記 14章	「あなたの行うすべての手の業について、あなたの神、主はあなたを祝福するであろう」(29節)。これは、三年目ごとに、その年の収穫物の十分の一を取り分け、町の中に取り分けておき、嗣業の割り当てのないレビ人や、町の中にいる寄留者、孤児、寡婦がそれを食べて満ち足りるようにしなさい、という愛の教え。これをなす者を主は祝福される。

16日 (木) 申命記 15章	「同胞のヘブライ人の男あるいは女が、あなたのところに売られて来て、六年間奴隷として仕えたならば、七年目には自由の身としてあなたのもとを去らせねばならない」(12節)。 この時、何も持たずに去らせてはならない。あなたの羊の群れと麦打ち場と酒ぶねから惜しみなく贈り物を与えなさい。(13～14 節)とある。弱き人にも注がれる神の愛を感じる。
17日 (金) 申命記 16章	「男子はすべて、年に三度、すなわち除酵祭、七週祭、仮庵祭に、あなたの神、主の御前、主の選ばれる場所に出ねばならない」(16節)。この時、「町にいるレビ人、寄留者、孤児、寡婦などと共にこの祭りを喜び祝いなさい」と繰り返されている(11、14 節)。これはイスラエルの民が奴隷であったエジプトから主が救い出してくれた恵みを覚えるためであろう。
18日 (土) 申命記 17章	「王は大勢の妻をめとって、心を迷わしてはならない。銀や金を大量に蓄えてはならない」(17節)。これは王に関する規定であるが、その他に律法を忠実に守り、神を畏れることが定められている。イスラエルの三代目の王、ソロモンは素晴らしい知恵を与えられるが、多くの妻とたくさんの財産を持っていた。その後、国が分裂するという悲惨なことになる。
19日 (日) 申命記 18章	「同胞の中で彼(レビ人)には嗣業の土地がない。主の言われたとおり、主が彼の嗣業である」(2節)。レビ人は他部族のように土地の分配を受けず、「主なる神を嗣業として」受けた。それは詩編16:5以下に賛美されているように、土地の収穫(富)に依り頼むのではなく、「主から受ける恵み、慰め、救いで生きていく」こと。この大いなる恵みを知る者とされたい。